

# 赤ちゃんを 事故から守ろう!

- ✖ 誤飲
- ✖ やけど
- ✖ 窒息
- ✖ 転倒・転落
- ✖ 気管支異物
- ✖ 交通事故
- ✖ 溺水
- ✖ 熱中症



デジタル  ブック スマホやタブレットで読めます。

●文字サイズ拡大、自動音声読上げ ●6言語で読める・聞ける(音声読上げ対応)

Translated into 英語 (English)、韓国語 (한국)、中国語 (簡体字 (简体中文)・繁体字 (繁體中文))、ベトナム語 (Tiếng Việt)

※ベトナム語のみ、音声読上げ非対応です。

二次元コードを読み取ると「利用の仕方」が開きます。内容を確認後、デジタルブックをお読みください。

1歳から小学生にかけて「不慮の事故」がこどもの死亡原因の上位を占めています。\* こどもの事故の特徴は、発達年齢によって起こりやすい事故があるのとこどもは大人が想像できないような事をする事です。成長の中でどういう事故が多いかを知って予防しましょう。

※厚生労働省令和4年「人口動態統計」

## ✂ 誤飲

こどもは生後5か月を過ぎると手にしたものは何でも口に持っていくようになります。

硬貨、ボタン電池など直径39mm以下のものは飲み込みますので、1m以上高い所に保管してください。

誤飲の原因で多いのはたばこで、生後5～6か月からみられ、8か月児に最も多くみられます。誤飲後30分ぐらいで顔色が白くなり、吐くことがあります。その他薬、洗剤、化粧品などがあります。飲んだものによって対処が異なりますので、医師に相談するか、中毒110番に電話してください。





大阪中毒110番…072-727-2499

(365日、24時間対応)

つくば中毒110番…029-852-9999

(365日、24時間対応)

たばこ専用電話…072-726-9922

(365日、24時間対応、  
テープによる情報提供)

## ☘ 窒息

乳幼児はものを詰めやすく、食べ物を細かくすることができません。気道が詰まると死亡することもあります。



こんにゃくゼリー、あめ玉、餅、肉片など詰まりやすい大きさのものや、かんでもかみきれないような食べ物は5歳になるまでは避けましょう。

万が一、何かのどに詰まった場合は、こどもをうつぶせにしたり、下向きに抱えて背中をたたいてください。



## ☘ 気管支異物

気管にものが入り、呼吸困難や肺炎を起こすことがあります。乳幼児に多く、5歳以下が約9割です。異物として最も多いのはピーナッツで3～8割を占めます。

5歳になるまでは、ピーナッツなど乾いた豆類、ピーナッツ入りのせんべいやチョコレートは食べさせないようにしましょう。



## できすい ☘ 溺水

乳幼児の溺水は家庭内でも起こります。家庭の浴室はたいへん危険な場所で、小さなことでもはわずかな深さの水でもおぼれます。浴槽の縁と洗い場の高さが50cm以下の場合には転落する可能性が高いので、特に注意が必要です。

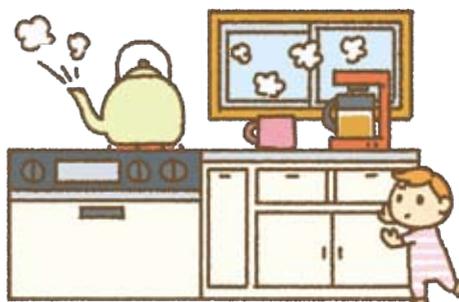


浴槽には残し湯をしない、浴室の入り口に鍵をかけるなどこどもが入れないように心がけてください。

また家庭用のビニールプールも同じですので、こどもだけにしないように気をつけてください。

## ✿ やけど

こどものやけどの多くは家庭内（特に台所）で起き、行動範囲の広がる1歳児に最も多くみられます。



熱いお茶、コーヒー、カップめん、ストーブ、アイロンなど原因になるものは、こどもの周りに置かないようにしましょう。

万一やけどをした場合は、水道水で20～30分冷やしてください。



## ☪ 転倒・転落



乳児ではベビーベッドなどから、1歳前後では階段やベビーカー、ショッピングカートなどからの転落がよくあります。歩行器を使用している家庭では、段差（階段）で歩行器ごと階段から転落することがありますので注意してください。

赤ちゃんのそばを離れるときは必ずベッドの柵を上げる習慣をつけ、階段には柵をつけましょう。また屋外への転落事故を防ぐため、ベランダや窓際には踏み台になるものを置かないようにしましょう。

歯ブラシや箸、フォークなどを口にくわえたまま走り回るのはやめさせましょう。転ぶとのどに突き刺さることがあり危険です。

## ☪ 交通事故

6歳未満のこどもを自動車に乗せるときは、チャイルドシートの使用が法律で義務付けられています。



特に1歳未満10kg以下のこどもに使う場合

こどもの成長に合わせて、年齢ではなく体格に合ったものを使い分けて、運転前には正しく取り付けられているか確認しましょう。特に1歳未満10kg以下のこどもに使う場合は、後部座席に後ろ向き・45度の角度に取り付けましょう。

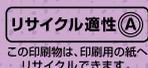
## ☘ 熱中症

乳幼児は暑い環境で、比較的短時間でも熱中症になる危険があります。熱中症になると意識がなくなったり、けいれんを起こし死に至ることもあります。自動車の中など狭い空間では温度が急に上がるので、短時間でもこどもをひとりにしないようにしましょう。



愛 媛 県  
愛 媛 県 医 師 会  
愛 媛 県 小 児 科 医 会

〒790-8585 松山市三番町4-5-3



☎ 089-943-7582  
FAX 089-933-1465

令和2年10月 第1刷発行  
令和6年 4月 第5刷発行